

## 16 国際教育

### (1) 国際教育とは

「国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成する」ための教育。

### (2) 国際教育の理念と目標

#### ① 国際教育の理念

国際化が一層進展している社会においては、異文化に対する理解や、異なる文化をもつ人々と共に協調していく態度などを育成することは極めて重要なことである。一人一人が相互理解に基づく多文化共生という視点を持ち、国際社会の一員としてどのように生きていくかという主体性を一層強く意識しながら、国際社会の平和と発展に寄与する態度の育成が求められている。

#### ② 国際教育の目標

国際教育を通して、全ての児童生徒に次のような能力・態度を身に付けさせたい。

ア 異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力

イ 自らの国の伝統・文化に根ざした自己を確立し、自分の考えや意見を表現できる態度・能力

ウ 自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる態度・能力

多様な人々との日常的な交流が拡大する中であっては、異文化や異なる文化をもつ人々を理解するだけでなく、それらを受容しながら共生することのできる力が重要となる。

### (3) 国際教育を推進する上での留意事項

#### ① 授業実践の推進

単なる体験や交流活動に終始しないように留意する必要がある。平和、人権、環境、開発などの地球規模的課題や今日的課題を、児童生徒の身近な課題として取り入れるようにするとともに、学習の成果を児童生徒が自分との関わりの中で実感できるように、調べ学習や体験学習、交流活動などを効果的に実施し、スパイラルな課題探究、解決型の学習プロセスを大切にする。

#### ② 教育活動全体の中での位置付け

外国語活動や外国語科の授業のみが国際教育というわけではない。外国語教育以外にも、学校行事や総合的な学習（探究）の時間、特別活動などの時間に外国の方を招いての「国際交流」の機会を設けることなどが考えられる。すなわち各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習（探究）の時間などを含めた学校全体の教育活動の中で取り組むことが重要である。

#### ③ 直接的な異文化体験の重視

留学、研修旅行、海外修学旅行や姉妹校提携など、様々な形態での交流活動が考えられる。児童生徒の発達段階に応じ、地域や学校の実情に合わせて、バランスのとれた国際交流を進めていくことが重要である。異なる文化・生活・習慣をもつ同年代の児童生徒との交流活動や、ALT等との交流により、異文化を直接体験することは、国際性を養うという意味で大きな意義をもつ。

#### ④ 地域との連携

国際教育は、学校の中だけでなく、学校外の教育的資源を活用しながら推進することも必要である。学校外の地域人材の活用や児童生徒の校外における交流活動など、様々な体験活動も重視した地域との連携が求められる。

#### ⑤ 帰国・外国人児童生徒教育との関連

帰国・外国人児童生徒の母語や文化を紹介し、国際理解を進めるという取組が行われている例は多い。文化の差異を過度に強調してしまわないよう、児童生徒がお互いの違いを理解・尊重し、対等な立場で意見や考えを述べ、また協力し合うという視点を持ち、児童生徒の相互理解を通じた国際教育を推進していくことが大切である。

#### <参考文献>

- ・「初等中等教育における国際教育推進検討会報告」 平成17年8月 文部科学省
- ・「小学校外国語活動研修ガイドブック」 平成29年7月 文部科学省